

報道発表資料

「長七たたき」遺構 服部長七の生誕地・碧南市で初めて確認 キャッチネットワーク取材スタッフ 発見に協力

CNCIグループの株式会社キャッチネットワーク（愛知県刈谷市、代表取締役社長：松永光司）と株式会社オフィスげんぞう（愛知県碧南市、代表取締役：宮本雅文）は、碧南市で確認された（7月17日、碧南市発表）明治時代の土木技師・服部長七が手がけた「人造石遺構」の発見に協力しました。



新たに発見された人造石遺構 全景



人造石遺構

碧南市教育委員会文化財課が、本日17日にその存在を確認したと発表した碧南市川口町の「前浜新田人造石護岸」は、日本の近代化に貢献した碧南市出身の土木技師・服部長七が明治34～35年に手がけたとされる人造石遺構です。

弊社と株式会社オフィスげんぞうは、碧南市が準備をすすめる服部長七の没後百年を記念した企画展を取材中、市内に人造石らしき遺構を発見。産業考古学会会長の天野武弘氏と碧南市学芸員とともに、服部長七が築いた前浜新田護岸人造石遺構を確認しました。遺構は全長500メートル以上にもものぼり、これほど大規模なものは、全国的にも珍しいそうです。

なお、遺構発見の過程や服部長七についての特集をニュース番組「KATCH TIME30」にて7月31日に放送します。ぜひ、ご覧ください。



碧南市出身の土木技師
服部長七

【人造石とは】

セメントが普及するまでの明治10年代から30年代にかけ、全国的に築港工事や新田開発、樋門建設などに広く用いられた土木工法。矢作川流域など、三河地方に堆積する真砂土と消石灰を水で練り、それをたたき固める、いわゆる「たたき」の技法を土木工法に応用したものです。表面に花崗岩を配することで、水密性を確保したのが特徴。服部長七は、人造石工法を用いて名古屋港や四日市港、広島・宇品港などの難しい工事を成し遂げ、日本の近代化の礎を築きました。

(写真提供：岩津天満宮)

【本件に関する問合せ先】 株式会社キャッチネットワーク コーポレート本部 広報課 宮田 美穂
電話：0566-27-2206 FAX：0566-55-4321 e-mail:katch_pr@katch.co.jp